

今週の
みことば

「渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい」

(列王記第二 2 章 1 節～15 節)

「渡り終えると、エリヤはエリシャに言った。『あなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に求めなさい。』するとエリシャは、『では、あなたの霊のうちから、二倍の分を私のものにしてください』と言った。」(2:9)

(ヨハネの福音書 7 章 32 節～39 節)

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。』」(7:37-38)

今日のメッセージ要旨

◎私達の指導者であられる方が召されていく場合、これからのことを思い、目の前が真っ暗になることがありますね？ その時、何が必要なのでしょうか？

◎今年の暦では、3月31日(日)は主イエス様の復活日、5月9日(木)は主イエス様の昇天日、19日(日)が聖霊降臨日(ペンテコステ)に当たります。主イエス様が昇天される前に弟子たちに「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい」と命じられ、「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります」と約束されたのです。その上、主イエス様の昇天を視ていた人々に二人の御使いを通して「もう一度主イエスが再臨される」ことも語られたのです。そのことを聞いて「彼らは町にはいると、泊まっている屋上の間に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった」のです(使徒 1 章)。

◎列王記第二 2 章は、かつて主が仰せられた通り(Ⅰ列王記 19:16)、エリヤからエリシャに預言者のかしらが変わるのです。エリシャは既に召命を受け(Ⅰ列王 19:19-21)、エリヤに仕えていた。エリヤが天に上げられることとエリシャが後継者となることは知られていた。3 回に亘って(2, 4, 6)エリヤがエリシャを遠ざけようとしたことは、エリシャには試みとなる。「霊の 2 つの分け前」(9)を求めたのは、エリヤとの能力の違いを認めたことと、遺産相続時の長男の取り分(他の兄弟達の 2 倍)で(申命記 21:17)、あなたの後継者の意味です。エリシャはエリヤの昇天を目撃した。預言者の仲間達はエリシャがエリヤの後継者であることを認めたのです。私達も自分の欠乏を認め、主の御前に聖霊を祈り求める者でありたい。

◎ヨハネの福音書 7 章の「祭り」とは一週間続く「仮庵の祭り」のことです(ユダヤ歴の三大祭の一つ。すべての収穫の刈り入れがすんだ秋に祝われた。祭りの一週間、木の枝で造った小屋に宿り、先祖が荒れ野を放浪中、神が幕屋に宿って彼らを守られた事への感謝を新たにした)。その「終わりの大いなる日」は、シロアムの池から運び上げた水を神殿の祭壇に注ぐ日です。

主イエス様はその日に大声で「魂の渇きをいやす水」を与えると約束されたのです。それは「聖霊を注ぐ」ことの約束なのです。「ああ、渇いている者はみな、水を求めて出て来い、金のない者も」(イザヤ 55:1)、「わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる」「渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、それをただで受けなさい」と招かれているのです(黙示録 21:6, 22:17)。

私達も是非、約束の「聖霊の恵み」を祈り求めましょう。